



No. 66

# The University of Tokyo Forests News 科学の森ニュース

June 10, 2014

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

## 日本森林学会大会で大学演習林 120 周年記念展示を行いました

今年、日本で最古の大学演習林である千葉演習林が創立 120 周年を迎える記念の年です。そこで、平成 26 年 3 月に開催された第 125 回日本森林学会大会において、全国大学演習林協議会（全演協）主催で「大学演習林 120 周年記念展示」が行われ、全演協に参加している 27 大学の演習林紹介ポスターと、歴史的な書物・写真、器具・標本等を展示しました。各大学演習林の紹介をしていただいた際には、多様な歴史や景観、ユニークな取り組みに、参加者が感心する場面もありました。これらのポスターは、弥生講堂で開催される全演協の秋季大会で再び公開される予定です。



大学演習林 120 周年記念展示の様子

「科学の森ニュース」のバックナンバー（PDF 形式）は東京大学演習林のホームページからダウンロードすることができます。  
(<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>)

## 各地の演習林で雪による 森林や設備の被害が多発

平成 25 年 10 月 16 日、北海道南岸に接近した大型台風を引き寄せられた寒気と台風外縁の湿った空気がぶつかり、通常より早い雪になりました。北海道演習林では紅葉した木が、葉に付着した湿雪の重さで大量に倒れました。平成 26 年 2 月 14 日には関東一円に降った記録的な量の積雪で、秩父、富士、千葉、田無で建物や林道設備等の被害が発生しました。秩父では 1 m を超える積雪で国道や鉄道も通行止めになり、1 か月以上たってから、降雪直後の雪の重さによる被害に加えて、その後の雪崩でも歩道の橋やモノレールへの被害が出たことが分かりました。



雪崩によって曲がった秩父演習林入川軌道跡歩道の欄干

## 新刊書籍のご紹介

演習林出版局

このたび、演習林出版局から 3 冊の新刊が出版されました。今回、北海道演習林に関する書籍が刊行されたので 7 つの地方演習林の書籍が揃ったこととなります。出版局の書籍は、関連の地方演習林のほか、東大生協農学部店、ジュンク堂書店（池袋本店、ネットストア）にてお求めになれます。詳しくは HP (<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>) をご覧ください。

## わが国最古の「大学の森」 東京大学千葉演習林のすべて

1,000 円+税 四六判 245 ページ

千葉演習林は日本で最初に創設された大学演習林で、2014 年に 120 周年を迎えました。

本書は、過去のあゆみとともに、房総半島南部の森林を解説しながら、これまでに蓄積された森林に関わる情報を基に、現在行われている様々な研究・教育・社会貢献を紹介しています。

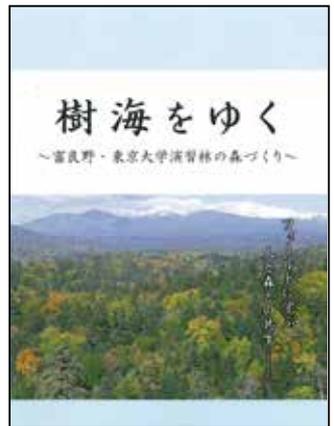


## 樹海をゆく

～富良野・東京大学演習林の森づくり～

1,000 円+税 四六判 196 ページ

北海道演習林では、亜寒帯の針葉樹を植栽して育てる人工林と自然度の高い落葉広葉樹と針葉樹の混交林がその多くを占めており、そこでの「森林生態系の持続的・順応的管理」を達成するため、組織的な研究教育が行われています。本書は、北海道演習林の現在の森林が造られてきた自然条件と森林科学の科学的、技術的な背景、これまでとこれからの森づくりの進め方などについて解説しています。



## 犬山研究林の自然―秋・冬― 東京大学演習林生態水文学研究所 リーフレット・シリーズ 7

463 円+税 A5 判 30 ページ

犬山研究林利用者協議会のメンバーが中心となり、犬山研究林の秋と冬の自然にスポットを当ててまとめたものです。



千葉演習林が位置する房総丘陵の清澄山系は、植物相・動物相ともに多様性の高い地域であることが知られています。そこで、千葉演習林内全域をフィールドとして、維管束植物相、昆虫相、地衣類相、蘚苔類相、糞生菌類、地質古生物、温帯性樹木という7つの対象について、千葉県立中央博物館の研究者と演習林教職員が共同で調査に当たり、その多様性や特性を解明することを目指しています。これは同博物館が平成24年度から26年度までの3ヶ年計画で進めている重点研究「房総丘陵の自然—過去、現在、未来—」プロジェクトの一環にもなっています。

これまでに、維管束植物相調査では林内踏査から約1000種の生育を確認し、オククルマムグラといった種が県内で初めて発見されました。昆虫相調査でも様々なトラップを使って昆虫を採集し、平成24年度調査では県内初記録の甲虫が12種も確認されました。また、温帯性樹木の調査では、千葉演習林が昭和2年より蓄積してきた保護樹の情報が役立てられ、イヌブナなどの分布要因を推定する一助となりました。

今後も博物館との共同研究によって演習林の教職員だけでは気付かなかった新たな発見があることが期待されます。



深夜に点灯して白布に集まる昆虫を採集するライトトラップ

### 演習林のイベント情報

詳細はホームページをご覧ください。各演習林にお問い合わせください。

#### 【4月】

- 5日 鴨川市・東京大学交流事業  
「野鳥の巣箱をかけよう！」巣箱観察会◆(千葉)
- 15日 植樹祭◆(生水研)
- 16日 第1回温室特別公開日(樹芸)
- 19日 犬山研究林利用者協議会「総会と自然観察会」◆(生水研)
- 19日 東大教職員向け特別ガイド「春の彩りを訪ねて」◆(富士)
- 19日 第2回温室特別公開日(樹芸)
- 20日 シデコブシの会「総会とGPS・コンパス講習会」◆(生水研)
- 27日 春の休日公開(田無)

#### 【5月】

- 4日 春の休日公開(田無)
- 9日 平成26年度利用者研究集会・  
尾張東部丘陵自然環境研究者の会◆(生水研)
- 10, 24日 体験ゼミ「都市の緑のインタープリター養成」☆(田無)
- 18日 サポート団体「交流会」◆(生水研)
- 23日 春のガイドツアー「カエデの見分け方を学ぶ」(秩父)
- 24～25日 体験ゼミ「初夏の奥秩父を巡る」☆(秩父)
- 25日 犬山市「春のふれあい自然観察会」(生水研)
- 27日 公開作業日(富士)
- 29日～6月1日 体験ゼミ  
「景観としての森林生態系と人間の感覚」☆(北海道)
- 31日～6月1日 体験ゼミ「初夏の奥秩父を巡る」☆(秩父)

#### 【6月】

- 1日 神社山自然観察路春季一般公開(北海道)
- 1日 「子ども樹木博士」認定会(田無)
- 1日 体験ゼミ「都市の緑のインタープリター養成」☆(田無)
- 7～8日 体験ゼミ「危険生物の知識」☆(秩父)
- 7～8日 総合科目「ダムと森林」☆(生水研)
- 14～15日 演習林交歓会2014◆(生水研)
- 15日 とよた森林学校「森林セミナー」(生水研)

- 16～17日 千葉演習林「利用者説明会」◆(千葉)
- 21日 日本陸水学会東海支部会談話会  
「研究内容に関する講義と研究施設、森林の見学」◆(生水研)
- 22日 公開セミナー(北海道)
- 24～27日 平成26年度教室系技術職員研修  
「フィールドワークのため高精度ポジショニングと  
3Dスキャニング/プロファイリング」◆(北海道)

#### 【7月】

- 5～6日 総合科目「癒しの森を考える」☆(富士)
- 6日 大麓山ハイキング登山会(北海道)
- 25～26日 夏の公開講座(昆虫)(秩父)
- 26日 公開講座(仮・親子向け)(樹芸)
- 28～30日 高校生のための森と海のゼミナール  
～大学の先生と考える環境問題と生物多様性～(千葉)
- 29日～8月1日 JSTサマー・サイエンスキャンプ  
「森林の未来は？～森を知り、  
持続的な取り扱いを考える～」(北海道)

#### 【8月】

- 4日 愛知淑徳中学・高等学校「森の健康診断」◆(生水研)
- 23～27日 総合科目「伊豆に学ぶプラス」☆(樹芸)
- 24～27日 体験ゼミ「夏版伊豆に学ぶ1」☆(樹芸)
- 未定 運動会学生との共同作業◆(富士)

#### 【9月】

- 7～11日 総合科目「伊豆に学ぶプラス」☆(樹芸)
  - 8～11日 体験ゼミ「夏版伊豆に学ぶ2」☆(樹芸)
  - 9～11日 体験ゼミ「癒しの森を創る(夏)」☆(富士)
  - 19～22日 体験ゼミ「夏版伊豆に学ぶ3」☆(樹芸)
  - 20～21日 せと環境塾(生水研)
  - 22～26日 総合科目「伊豆に学ぶプラス」☆(樹芸)
  - 23～26日 体験ゼミ「森に学ぶ(伊豆)」☆(樹芸)
- 凡例…無印：一般向け ☆：学生向け ◆：その他  
(<http://www.ufa.u.tokyo.ac.jp/>)

## 科学の森の動植物紹介

### タヌキ

ネコ目 イヌ科

学名：*Nyctereutes procyonoides*

タヌキは、漢字で「狸」と書くとおおり、人里に近いところにも棲んでおり、市街地にある田無演習林内でもたくましく生息しています。体形はずんぐりしており、昆虫や果実など様々なものを採食する雑食性です。「ため糞」と言って、複数の個体が決まった場所で糞をする習性があります。夜行性なので昼間はあまり目にするがありませんが、公開講座などでため糞場を見ていただくと、驚きの声があがります。糞に混じっていた種子から芽生えが出ていることもあります。

田無演習林



ため糞場で糞をするタヌキ  
(センサーカメラで撮影)

## 名所・名物案内

### 第一苗畑

田無演習林

新宿から私鉄で20分と、都心にほど近い西東京市。住宅地の広がるそのど真ん中に、鬱蒼とした樹林地が残されています。東京大学が管理する大学の森、田無演習林です。今回ご紹介する第一苗畑は、この田無演習林のシンボルといえるでしょう。なぜなら、そのルーツはこの苗畑にあるといっても過言ではないからです。田無演習林の前身をたどると、明治初期ドイツから林学を学んで帰ってきた松野<sup>はざま</sup>石礒が設立した樹木試験場に行き当たります。林業知識を持った人材の養成のために東京山林学校を開学した松野は、開学に先だち、苗の育成法や樹木の管理法などの教育に不可欠と考えて、



1958年(昭和33年)7月7日撮影  
第一苗畑気象観測施設

苗畑や見本林を備えた樹木試験場を整備したのです。以降、苗畑の教育上の役割は、組織改変を経ながらも受け継がれていきます。昭和4年には、東京大学農学部林学科附属の「田無苗圃」(または「多摩苗圃」)として現在の西東京の地に移転し、研究利用もさらに盛んになりました。昭和32年には、農学部附属演習林に移管され、戦中戦後の混乱期に低迷していた教育研究機能の立て直しが図られます。写真はそのころ復旧整備された苗畑の様子です。50年以上経た現在も同じ場所に気象観測施設があります。

科学の森ニュース (The University of Tokyo Forests News)

第66号 (No. 66)

発行日 平成26年6月10日

発行人 鈴木雅一

編集人 後藤 晋

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林広報情報委員会

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2010@uf.a.u-tokyo.ac.jp